SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

調査地概要

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学分野 公開日: 2024-04-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山崎, 紗和子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/0002000597

調査地概要

1　調査概要

静岡大学人文社会科学部社会学科人間学コース文化人類学分野では、人類学的なフィールドワークの手法を学ぶために、毎年現地調査を実施している。2023 年度は、5 月 28 日（日）から 6 月 1 日（木）までの 5 日間、静岡県静岡市駿河区久能地区（以下、久能）でフィールドワーク調査を行った。本年度はコロナウイルス蔓延の影響で、昨年度に引き続き期間中は現地に宿泊せず、西平松公民館を拠点とし、そこに毎日通いながら調査をした。

調査にあたり 2022 年 11 月から 2023 年 3 月まで、調査地の下見や、文献、インターネット等による基本資料の収集を断続的に行った。実習には、教員 3 名、学生 7 名の計 10 名が参加した。学生はそれぞれのテーマにもとづいて参与観察とインタビュー調査のほか、文献、写真などの資料収集を通じて、自らのテーマに沿って研究を進めた。本書は、その成果を全 7 章にまとめた報告書である。

2　静岡市駿河区久能の概要

次に、静岡市駿河区久能の地理や交通、産業などの概要を、主に『久能』（静岡市久能小学校創立 100 周年実行委員会編 1992）と『久能山誌』（静岡市編 2016）をもとに述べる。

2.1　地理と交通

久能は有度山と駿河湾に挟まれており、その地形は、有度山山麓・斜面・砂地から成る。平坦地は少なく、その多くは海岸の砂浜であった（静岡大学大学院教育学研究科社会科教育特別研究履修生 1995：10）。久能山の海岸線は久能海岸と呼ばれ、久能の人々の生活と密接に関わってきた。度重なる台風による高潮によって農作物の被害が発生し、海岸堤防の建設が進められ、1971（昭和 46）年頃までに全線にわたり堤防が完成した。この堤防建設の際に伴う工事用道路を一般道として活用したいという要望により、1969（昭和 44）年、海岸道路が完成し、県道静岡久能清水線となった。さらに 10 年後には一般国道 150 号線に編入された。現在においては、久能山東照宮やイチゴ狩りなどの観光用道路としても地域に貢献している（静岡市久能小学校創立 100 周年実行委員会編 1992：109）。国道 150 号線沿いは「いちご海岸通り」と呼ばれ、多くのイチゴ観光農園が軒を連ねている。

2.2　産業

続いて、久能の産業について述べる。海と山に囲まれた久能では、古くから半農半漁の生活を営んできた。かつては農業とともに製塩や漁業が行われており、漁業では地引網漁でのイワシ・シラス漁が盛んであったが、現在では漁業は行われておらず、農業が主な産業となっている。

久能は耕作地として利用可能な土地面積が狭いため、少ない面積を効率的に使う農業が行われている。かつては、有度山の山麓を開墾して麦やサツマイモなどが栽培され、砂地ではサトウキビやカボチャなどの露地栽培が行われていた。現在では、有度山の斜面を利用して石垣いちごの栽培や、温暖な気候を利用した葉ショウガの促成栽培が主に行われている。石垣いちご栽培は、1896（明治 29）年に定植されて以降、多くの農家が栽培に従事している（静岡市編 2016：119）。石垣で栽培することによって太陽光線を直角に受けるのと同時に、海岸線にあるため海面からの放射熱を受け、保温効果を高め、果実の熟期を早めることができることから、海に面した久能に適した栽培方法といえる。1935（昭和 10）年頃に戦争が始まったため、炭水化物であるサツマイモや麦を作ることが他の作物よりも重視され、イチゴを作れなくなったことがあったが（静岡市久能小学校編 1982：13）、その後再開し現在まで続けられている。石垣いちご農家のなかにはイチゴ狩りを取り入れた観光農園も数多くあり、多くの観光客を楽しませている。また、葉ショウガについては、久能の温暖な気候に適しており古くから栽培されていた。今から 45 年程前に東京出荷を始めてから生産量が大きく増加し、イチゴと並ぶ久能の特産品となった（静岡市久能小学校創立 100 周年実行委員会編 1992：123）。

3　人口と住民組織

表 1 は、2023（令和 5）年 9 月 30 日時点での久能の人口をまとめたものであり、全体の人口は 1300 人である。全人口に対し 65 歳以上の人口が 21%を超えると超高齢社会と呼ばれるが、久能の高齢化率は 6 町の平均で 45%であり、超高齢社会の基準値となる 21%を大きく上回っている状況である。また、15 歳未満の割合は久能全体の人口の約 5%であり、65 歳以上の割合に比べ 40%低いことがわかる。これらのことから、現在の久能において少子高齢化が大きな課題になっているといえる。

続いて、現在久能で活動する住民組織について見ていく。久能にある住民組織としては、「久能グラウンドゴルフ葵会」、「久能太鼓保存会」、「静岡・久能苺狩り組合」などが挙げられる。久能の住民組織は、町全体ではなく、地域住民が個人で始めたものや、久能全体ではなく一部の地区の住民と久能とは違う場所から参加しているものが多い。たとえば、「久能

太鼓保存会」は西平松地区と根古屋地区（地区名については第 5 節参照）に住んでいる住民に加え、久能の西側の大谷地区や、静岡県焼津市のメンバーも参加している。また、「静岡・久能苺狩り組合」は、久能のイチゴ狩り農園が属しているが、主な活動はイチゴ狩りの料金の統一であり、農園の運営や集客は各農園が独自に行っている。このように、地域住民が小規模で始め、いくつかの地区のメンバーで活動をしたり、統一する部分と個々で行う部分を分けたりと、久能という枠にとらわれない小規模な住民組織や、個人で活動しやすくするための補助的な役割としての組織が活動を行っている。

町名	総数	15 歳未満	15〜64 歳	65 歳以上	高齢化率
西平松	377	22	186	169	44.83%
中平松	194	16	88	90	46.39%
青沢	122	6	65	51	41.80%
古宿	154	5	76	73	47.40%
安居	196	4	101	91	46.43%
根古屋	257	20	112	125	48.64%

表 1　久能における町名別人口（2023〔令和 5〕年 9 月 30 日時点）
出典：静岡市の町名別人口より伊藤作成

4　歴史と行政区の変遷

次に、久能の名前の由来、明治から現在までの歴史を第 2 節で用いた 2 冊に加え、『久能の昔を伝えるもの』（静岡市立久能小学校編 1982）をもとに概要を示す。久能という名前の由来には久能忠仁説と阿部久努朝臣説という 2 つの説がある。久能忠仁説に依拠すれば、「東海道図絵」に「推古天皇の御宇久能忠仁郷駿河守に任ぜられ下向す」と書かれていたこと、「神社考」に「昔久能なるものありて、（中略）寺を建て号して、補陀落といい寺を久能という久能は尊良の子にして、推古帝の時の人なりと、未詳なり」と書かれていたことが由来とされている。また、久能ははじめ「ヒサヨシ」と唱えていたが、後に久義皇子の御名を憚って「くのう」と改め呼んだと言われている。

他方、阿部久努朝臣説は、「続日本紀」の 712 年の条に「久能朝臣御田次、長田朝臣大麻呂等は（中略）もとは別氏なれども俱に本姓を蒙る。これを許す」、「天武紀」に「阿倍久奴（くのう）臣」、「大日本史」に「久能郷あり、阿倍久努臣の所謂なり」と書かれていたことから、吉田文学博士が「住昔、此の地方に繁昌せる阿倍氏の一族なる久努臣の家号にして、久能寺と謂うも、もと地名を以て、寺号に呼びたるものなり」と推断したことが由来という説である（静岡市立久能小学校編 1982：1-2）。

久能はかつて「久能八ヶ村」と呼ばれ、西から「西平松、中平松、青澤（現在では青沢）、古宿、安居、根古屋、蛇塚、増」を指したが、1889（明治 22）年の市町村制施行に際して、「西平松、中平松、青澤、古宿、安居、根古屋」の 6 町が久能村（安倍郡）となり、「蛇塚、増」は不二村（安倍郡）の帰属となった（静岡市編 2016：20）。その 3 年後には現在の静岡市立久能小学校の前身である久能尋常小学校が創立され、1944（昭和 19）年には久能山東照宮が国宝に指定されるなど、現在の久能につながる制度や環境ができ上がっていった。また、久能は昭和に 2 度大きな災害に見舞われた。1 度目は 1935（昭和 10）年 7 月 11 日の大谷地震であり、有度山南西部、大谷川下流に著しい被害をもたらした。2 度目は 1974（昭和 49）年 7 月 7 日の七夕豪雨であり、6 町すべてにおいて床上、床下浸水などの家屋被害が発生した（静岡市立久能小学校創立 100 周年実行委員会編 1992：99-105,115-116）。住民によれば、当時石垣いちごの畑も大きな被害を受け、イチゴの苗が無くなる危機に陥ったという。しかし、この状況において当時の農家が石垣の穴に苗を 1 つおきに植える方法を開発し、結果的に石垣いちごが美味しくなったと地元住民の 1 人が話していた。以上の災害の歴史を経て現在の久能のかたちがあるといえる。

ここで、本報告書での行政区の呼び方を示しておく。統計資料等には久能学区と表記されているが、本報告書ではそこに住む人々の呼び方に則って久能と表記する。また、久能には現在、上記の 6 つの町の自治会があり、本書では、これらの地域を安居、根古屋というように自治会名で表記する。

5　本書の構成

最後に、本書の構成について言及したい。各章の内容は以下の通りである。

第 1 章では、在校生が減少の一途をたどる久能小学校と、それに伴い発足された「久能小学校の未来を考える会」について記述する。第 2 章では、グラウンドゴルフを通して作り上げられる久能の人々のつながり、さらにグラウンドゴルフをすることがその人の生活をいかに豊かなものにしているのかを明らかにする。第 3 章では、久能で唯一の老人会である安居睦寿会に集う会員の語りをもとに、会のかたちがどのように変化してきたのかについて述べる。第 4 章では、久能に伝わる羽衣伝説を再現する羽衣の舞の変遷を辿り、その伝承形式の変化を分析する。第 5 章では、久能で活動する久能太鼓保存会が、久能の外部から移住してきた参加者にとってどのような場となっていたかについて記述する。第 6 章では、久能で発生した台風被害の事例から見えてきた人々の暮らしを、地域特有の生業と関連づけて論じる。第 7 章では、久能の名物である石垣いちごが、イチゴ狩り農園を経営する人々の生き方にどのように影響しているのかを記述する。

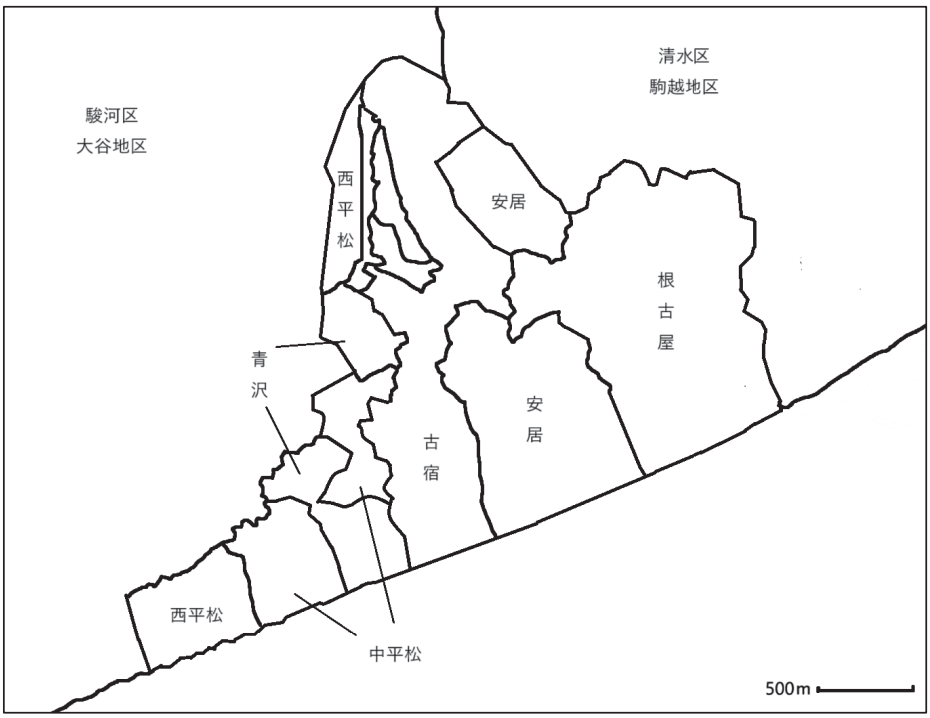
本報告書は、以上の 7 章に本章を加えた全 8 編および巻末の各執筆者によるコラムから

構成されており、各章が取り扱うテーマは学生 1 人ひとりの興味関心のありかを示している。7 人それぞれの異なった視点から、久能という地域の特徴や、そこで暮らす人々の営みを描くことができていれば幸いである。

参考文献

静岡市編
　2016『久能山誌』静岡市。
静岡市ホームページ
　2023　「町名別人口の推移」
　　（2023 年 11 月 7 日閲覧　https://www.city.shizuoka.lg.jp/000995068.xls）
静岡市立久能小学校編
　1982　『久能の昔を伝えるもの』静岡市立久能小学校 PTA。
静岡市立久能小学校創立 100 周年実行委員会編
　1992　『久能』静岡市立久能小学校創立 100 周年実行委員会。
静岡大学大学院教育学研究科社会科教育特別研究履修生編
　1995　『街道を中心とする教材開発の試み~久能街道を事例として~「社会科教育特別研究報告冊子 1995 年度」』静岡大学大学院教育学研究科社会科共同研究。

図１　久能地図（自治会別）



出典：ここからネット「自治会・町内会マップ」
(https://kokokara-net.jp/map/story/8)
Cork 地図で調べる学区情報「久能小学校（静岡県静岡市駿河区）の学区マップ」
(https://corkmap.jp/school-districts/B122210001940）をもとに吉仲作成